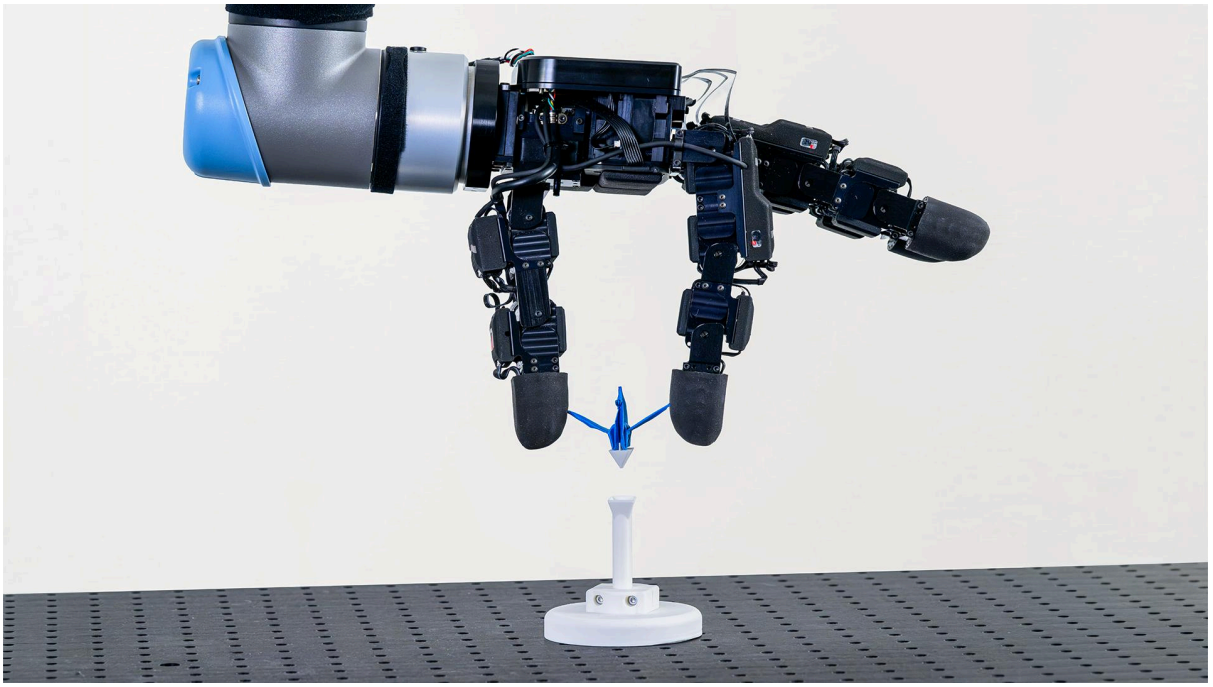
2026年11月24日

＜プレスリリース＞

XELA Robotics、米国ラスベガスで開催される世界最大級のテクノロジー展示会「CES2027」に出展決定

「人のような感覚」を備えたフィジカルAIや極薄の物体を精密につかむフィンガーチップ搭載ロボなどを実演

XELA Robotics株式会社（本社：東京都、以下XELA Robotics）は、2027年1月6日（水）～ 1月9日（土）にラスベガス・コンベンション・センター（LVCC）で開催されるCES（Consumer Electronics Show）に出展いたします。2026年に引き続き、2回目の出展です。XELA Roboticsのブースでは、人間型ロボットやロボットハンド、グリッパー向けに進化した触覚センサー技術「uSkin®」の最新事例を展示します。



CESは、毎年1月に開催される世界最大級のテクノロジー展示会です。かつての家電見本市から発展し、現在はAIやロボティクス、次世代モビリティなどあらゆる最先端技術が発表される場となっています。世界中から数千社の企業と10万人以上の関係者が集まり、その年のグローバルな技術トレンドと未来の市場動向を左右するイベントです。

XELA RoboticsはCESの会場で、以下のフィジカルAIによるデモンストレーションを実施します。

- 高感度「フィンガーチップ」を搭載したロボットを使い、極薄の物体の精密把持
- Tesollo社の5本指ロボットハンドによる、テーブル上の折り紙をつまみ上げる実演
- 視覚（ビジョン）と触覚（タッチ）の両方を組み合わせた、XELA Roboticsの統合ソフトウェアによる制御実演

XELA Roboticsは、ロボットに人間のような触覚を与えることで、ロボットハンドを人間の手のように器用でしなやかに動かすという課題の解決に取り組んでいます。これまで触覚の欠如は、多くの現場における人間型ロボットや産業用ロボットの活用を制限する要因となっていました。

独自の「uSkin®」高密度3軸触覚センサーはコンパクトでありながら高い空間分解能を備えており、ロボットが対象物をどの程度の強さで握っているか、また指先の中で対象物がどのように動いているかを正確に把握します。柔軟なエラストマーで構成されているため、さまざまな対象物の形状や、各種グリッパー、人間型ロボット、ロボットハンドにフィットします。また、製造、物流、倉庫管理など多岐にわたる市場の個別ニーズに合わせたカスタマイズにも対応しています。

XELA Roboticsのハードウェアおよびソフトウェアソリューションは、研究機関から産業・商業分野のクライアントまで、幅広い現場のロボットに高度な触覚をもたらします。

- **XELA Robotics株式会社CEO** アレクサンダー・シュミッツ博士 コメント

「将来的には汎用性の高い人間型ロボットが家庭や現場に普及していきますが、現在の工場や倉庫ではコスト面で優れたシンプルなグリッパー付きロボットアームが主流です。しかし、ケーブルの挿入のような作業には視覚だけでなく『触覚』が不可欠です。視覚だけでは重さや硬さ、握る強さが分からず、ハンドの内側も見えないためです。局所的な力加減とミリ単位の微調整を可能にするXELA Roboticsの触覚技術は、こうした現場の自動化を実現する鍵となります」

CES2026の様子はこちらからご覧ください。
https://xelarobotics.jp/exhibition/ces-2026-wrap-up/

XELA Roboticsについて

2018年に早稲田大学発のスピンアウトとして東京で設立されたXELA Roboticsは、ロボティクスと触覚センシングにおいてチーム累計70年以上の研究経験を持つチームです。私たちは、ロボットが現実の環境でモノをつかみ、操作し、そして人や対象物とより自然に関わるための触覚データの応用的な側面に焦点を当てています。信頼性が高く、汎用性に優れ、業界の誰もが利用できるオートメーションを実現することが、XELAの目標です。

【会社概要】
社名：XELA Robotics株式会社
所在地：東京都
代表取締役社長（CEO）：アレクサンダー・シュミッツ博士
事業内容：触覚センシング技術の開発・提供
URL：https://xelarobotics.jp/

【お問い合わせ先】

sales@xelarobotics.com